

アクションプランだより -2回目-

令和8年2月17日
氷見市立窪小学校

2回目の、アクションプランのアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。
結果をまとめましたので、ご覧ください。

アクションプラン1「家庭学習の充実・習慣化」

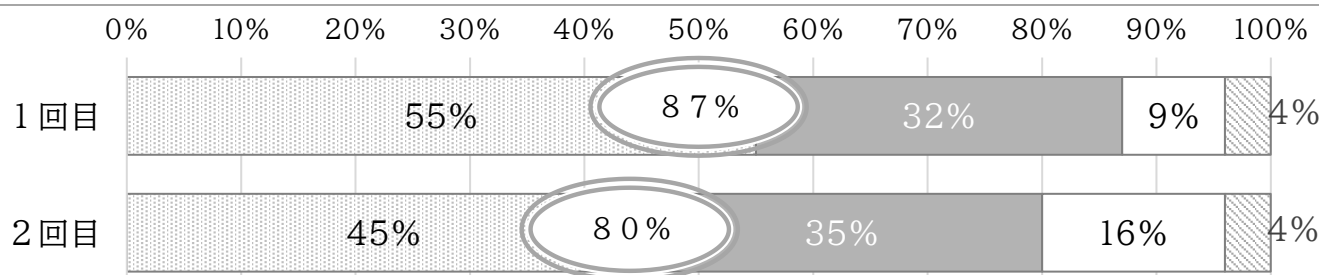
<達成目標>

各学年の目標の家庭学習時間(学年×10分)を達成する子供が85%以上

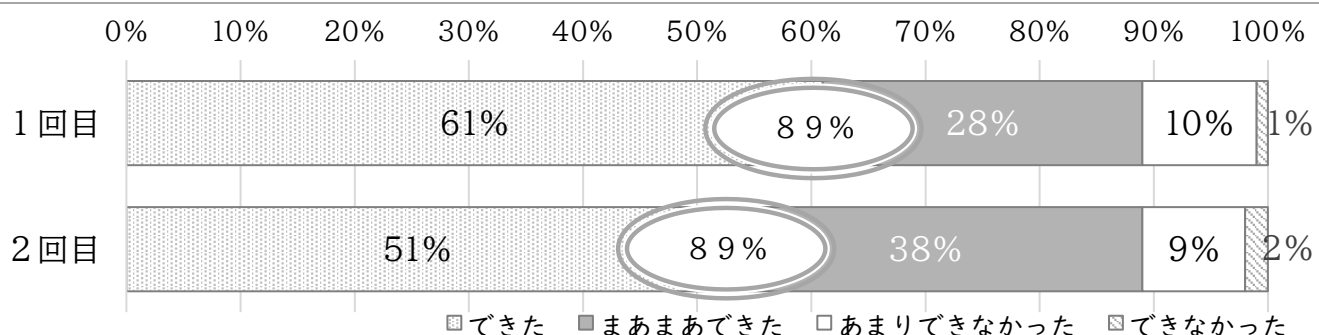
<子供>

- ① 家庭学習頑張り週間に、学年×10分以上の家庭学習に取り組むことができましたか。

<2学期>
できた…5・6日間
まあまあできた…3・4日間
あまりできなかった…1・2日間
まったくあてはまらない…0日

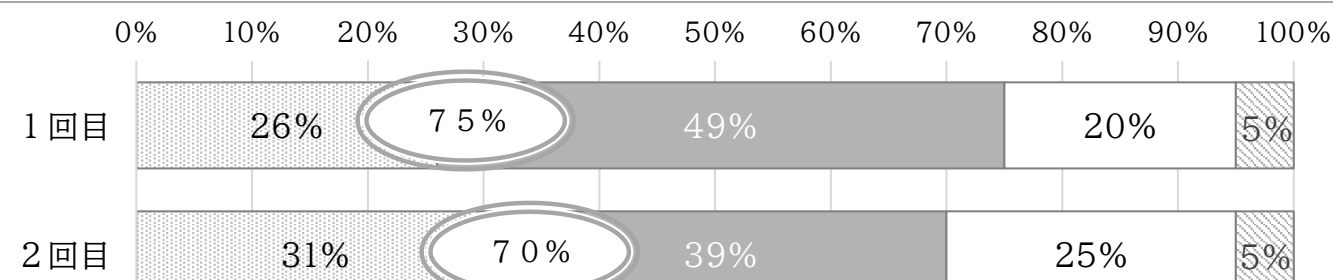


- ② 家庭学習頑張りカードを活用すること（3つの約束、時間、家庭学習内容例等）で目当てをもって家庭学習に取り組み、国語会、算数会に向けて頑張ることはできましたか。

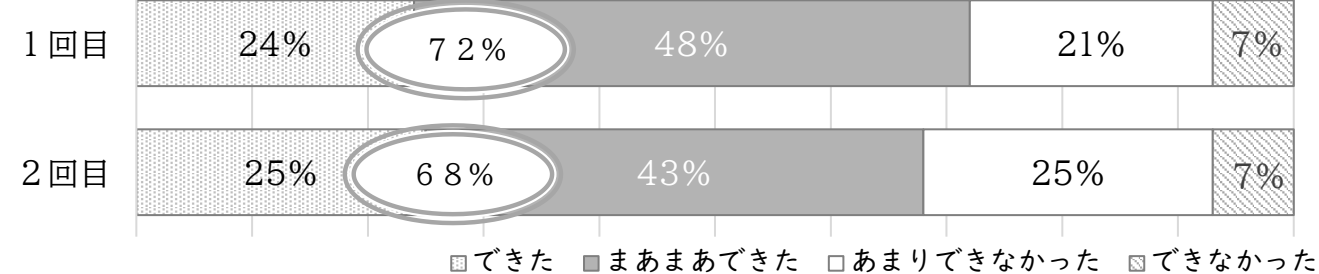


<保護者>

- ① 子供は、家庭学習頑張り週間に進んで学年×10分以上の家庭学習に取り組むことができましたか。



- ② 家庭で、子供が家庭学習頑張りカードを活用し、家庭学習を頑張ることができるよう、励ましたり一緒に取り組んだりしましたか。



○子供向けアンケート結果から

「とてもあてはまる」「すこしあてはまる」という回答

・設問①：80% ・設問②：89%

家庭学習頑張り週間を、年間を通して継続し、取組の振り返りまで行ったことが、よりよい学習習慣を身に付ける上で効果的であった。

国語会、算数会に向けて、家庭学習だけではなく、学校の授業でもスモールステップで漢字や計算の小テスト等を定期的に取り組む場を設けたり、週間の意味や取り組み方等を話し合い、目当てをしっかりと立てたりしたことで、学習意欲を持続させることができた。

また、全校に、望ましい学習内容の取組の分かる友達の家庭学習カードや自主学習ノートを紹介し共有したことも家庭学習を充実する上で効果的であった。子供一人一人の家庭学習に対する意識や、家庭学習の習慣が少しずつ定着してきたように思う。

しかし、数値は1回目と比べて、2回目は下がり、設問①については85%を達成することができなかった。アンケートの回答の仕方を明確にし、学習時間の目標達成日数としたことで、一人一人が学習習慣をより細かく見直したことが要因と言える。今後も、結果を子供と共有し目標設定するなど工夫しながら取組を継続し、家庭学習への意識を高めていきたい。

○保護者向けアンケート結果から

「とてもあてはまる」「すこしあてはまる」という回答

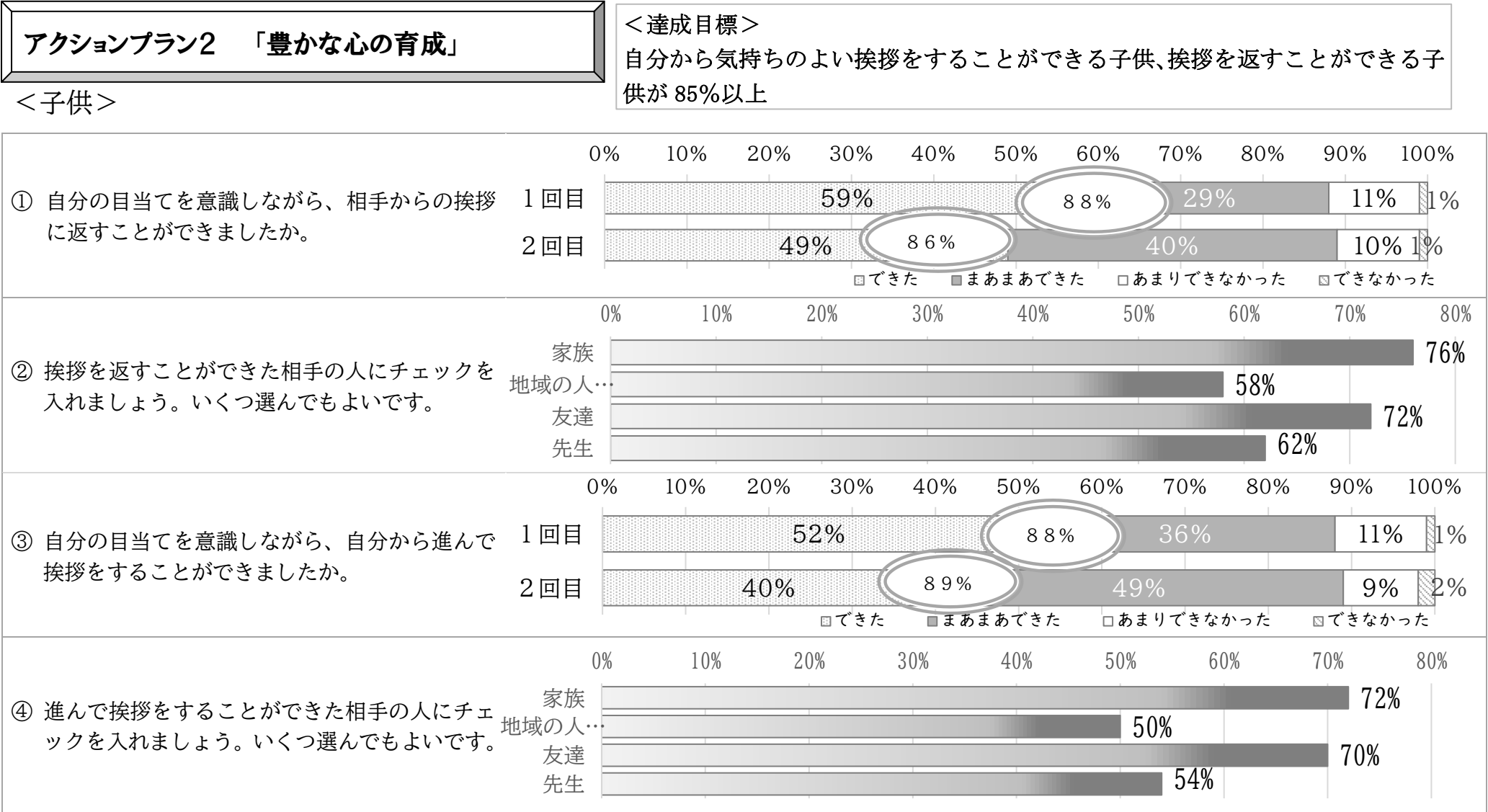
・設問①：70% ・設問②：68%

1学期の子供の実態や保護者のみなさんからの意見を踏まえ、学年の実態に合わせ、学習意欲が高まるように学級で話し合ったり、教師が例を挙げたりしたことが効果的であった。

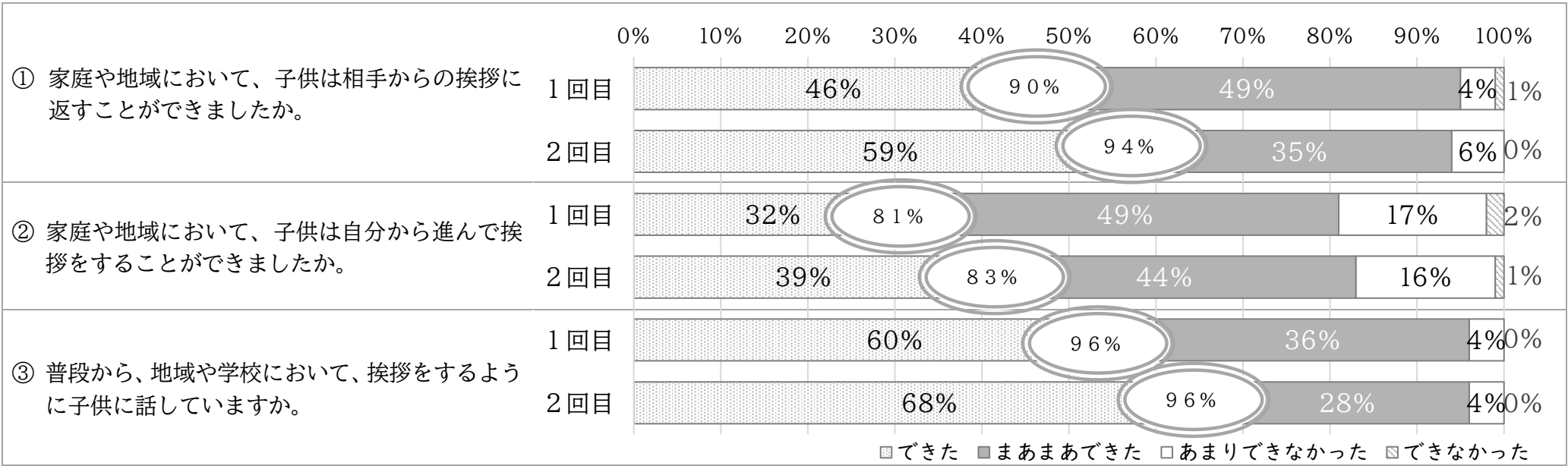
家庭学習頑張りカードの「3つの約束」「時間」「家庭学習内容例」を土台として、望ましい家庭学習について話し合い、子供たちが自分の課題を明らかにしたことで、自ら家庭学習週間の内容を計画し、進んでカードに書き込む子供の姿がみられた。また、学習の見通しをもつことで、1週間継続して自分の目当てに向かって取り組むことができた。教師は家庭学習頑張り週間中には毎日、家庭学習カードに目を通し、一人一人に合った励ましのコメントやアドバイスを入れたり、達成状況の確認をしてシールを貼ったりし、子供の意欲を持続させるよう努めた。

また、子供の学習に取り組む様子を踏まえ、毎回カードに保護者に向けたメッセージやお願いを発信したことも効果的であった。

しかし、数値は1回目と比べて、2回目は下がっている。また、設問①、②ともに85%を達成することはできなかった。子供のアンケートと同様、回答の仕方を明確にしたことも要因として考えられる。今後も、取組を継続し、よりよい学習習慣を身に付けられるよう家庭に働きかけたい。



<保護者>



○子供向けアンケート結果から

「とてもあてはまる」「すこしあてはまる」という回答

・設問① 86% ・設問② 89%

設問①、③ともに85%を達成することができた。生活委員会が主体となり、朝の挨拶運動や昼の放送による挨拶名人の紹介を行ったことが効果的であったと考える。しかし、設問①に関しては、88%から86%と数値が低くなった。年間を通して、挨拶への実践意欲が持続しなかったと考える。

挨拶週間中は、挨拶カードを用いて目標を立て、毎日の挨拶に取り組んだことで、ポイントを意識しながら挨拶を行うことができた。また、代表児童による玄関での挨拶運動や各学級が教室を巡回して行った挨拶運動を実施したことで、学校全体の気持ちのよい挨拶に取り組もうとする意識を高めることにつながった。

より挨拶への意識を高めていくために掲示物を用いて全校の頑張りを視覚化するなどの工夫を行っていく必要がある。

○保護者向けアンケート結果から

「とてもあてはまる」「すこしあてはまる」という回答

・設問① 94% ・設問② 83% ・設問③ 96%

設問①、②、③ともに80%を超えているが、設問②においては、他の質問項目と比べると、年間を通して低い傾向にある。挨拶をされると返すことはできるが、自分から進んで挨拶を行うことができていない児童もいることが伺える。

今年度は、保護者の方に挨拶カードにサインをしていただいたが、励ましのコメントを書く欄を設けたり、挨拶に関する啓発を家庭にも行ったりすることで、学校と家庭で連携を図って、挨拶への意欲を高めていく必要がある。

今後の課題

学習面では、学年が上がるにつれ、学年×10分の家庭学習の時間を確保することが難しくなっていることが分かった。昨年度に引き続き、今年度は家庭学習の時間に焦点を当て、取組を進めてきた。次年度は、家庭学習の方法や学校の授業と家庭学習とのつながり等、どのような視点に基づいて取組を積み重ねていくのか、全校的に吟味する必要がある。

生活面では、挨拶を課題に挙げ、取組を進めてきた。言葉遣い等、子供たちの言語環境も整えていくことも大切である。来年度は、どのような子供の姿を目指し、何を大切にしていけるのかを考え、学校生活で重点として掲げている生活目標とつなげて取組を進めていきたい。